

人との関わりを大切に、自己の生き方を考える修学旅行の実現に向けて

愛知県田原市立東部中学校

はじめに ～田原市立東部中学校の概要～

1 学校の沿革

1961（昭和36）年10月1日、神戸中学校・同六連分校・田原中学校東部校区を統合、田原町立東部中学校として開校。1965（昭和40）年、体育館完成、校歌制定。

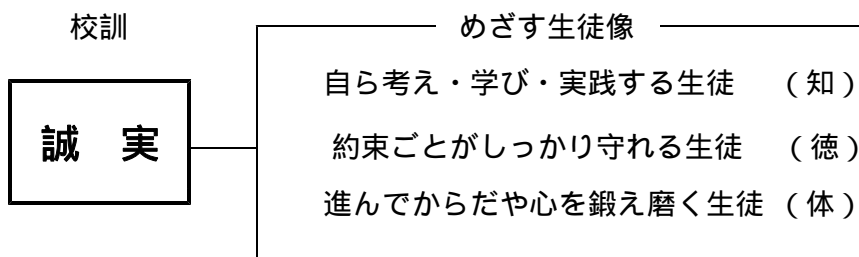
1988（平成元）年、柔剣道場完成。1998（平成11）年に校舎改築工事が始まり、平成13年に完成。2003（平成15）年8月20日、田原市発足に伴い、田原市立東部中学校となる。2005（平成17）年に屋内運動場改築。

2 学校の現況

開校48年目を迎え、現在の学級数は、14学級（特別支援学級2を含む）、生徒数は男子232名、女子226名の計458名（平成20年9月1日現在）。

3 教育目標

校訓を基盤に、知・徳・体の調和のとれた心豊かで実践力のある生徒を育成する。



- ・公正な判断力と強い意志を持ち、困難に耐え抜くたくましい生徒。
- ・自己を律し、自己の責任を果たし、全体のために奉仕できる生徒。
- ・心身ともに健康で、礼儀正しく、心豊かに生きようとする生徒。

4 本年度の重点努力目標

ア 学習指導の充実と改善に努める。

- ・自己実現を目指すために、基礎基本の徹底と個に応じた学習指導の推進に努める。
- ・指導方法の工夫と改善に努め、学ぶ楽しさと成就感を味わわせ、自ら学ぶ意欲を育てる。
- ・授業研究に積極的に取り組み、教師自らが学ぶ態度を養う。

イ 心豊かな生徒の育成に努める。

- ・道徳や学級の時間の充実を図り、思いやりや感謝の気持ちを育てる。
- ・集団の秩序やルールの大切さを自覚させ、正義感や公正さを重んじる心を育てる。
- ・あいさつの励行と基本的な生活習慣の確立を目指す。

ウ 主体的な生徒活動の推進に努める。

- ・自主的な活動を通し、よりよい学校生活を創ろうとする意欲や態度を育てる。

・活動を通し、連帯感と協調性を育て、成し遂げた喜びと感動を味わえる生徒を育てる。

エ 家庭・地域社会との連携に努める。

- ・地域で学び地域から学ぶ教育活動を推進し、社会の一員としての自覚を高める。
- ・学校参観を定期的実施し、保護者の理解を得るとともに情報の発信と受信に努める。

5 本校の修学旅行

開校より現在まで関東方面へ。

2008年度の実践

1. 修学旅行の位置づけ

平成20年度「総合的な学習の時間」

よりよい生き方を考える生徒

体験	問題解決	表現力
3年生「進路選択」 将来の自分の生き方について考え、自分の進路を選択・決定していく。		
3年生「修学旅行」 集団行動を通して生活経験を豊かにする。感動体験を味わうことにより、学年・学級の和を深める。また、班行動のまとめと発表を通して、自分たちの感動を伝え合うとともに、達成感を味わわせる。		
2年生「立志」 将来の自分について考え、どんな人間になりたいか、目標を持つ機会とする。立志の誓いや歩行を通して、今の自分自身を見つめさせる。また、まとめを通して、これからの人生の目標を掲げられるようにする。		
2年生「職場体験」 様々な職業を知ることからスタートし、自分が興味を持った職業についてさらに詳しく調べる。体験では、人との出会いや関わりを大切に、働くことの意義について考えさせる。また、まとめと発表を通して、地域社会の中の自分を見つめる目を育てる。		
1年生「福祉体験・福祉交流」 車椅子、点字、手話、ガイドヘルプなどの体験とともに、障害を持った方々との関わりを大切に、相手を思いやる気持ちを育てる。また、まとめと発表を通して、友だちの優しさに触れ、これからの学校生活にも生かせるようにする。		
1年生「オリエンテーション合宿」 中学校生活を理解するとともに、新しい仲間と協力して活動し、一体感を味わえるようにする。また、まとめと発表を通して、これからの中学校生活への意欲を高める。		

人との関わり、地域社会での体験、自己を見つめる活動

本校では、総合的な学習の目標を、

自ら課題を見つけ、自ら学び、自ら考え、主体的に判断し、よりよく問題を解決する資質や能力を育てること。

学び方やものの考え方を身につけ、問題の解決や探究活動に主体的、創造的に取り組む態度を育て、自己の生き方を考えることができるようにすること。

としている。そして、各学年のテーマを、

1年生：「福祉」 人との関わりを通して、 様々な人の生き方に気づき、 仲間とともによりよく 生きようとする生徒	2年生：「生き方」 今までの自分の生き方を 振り返り、新たなよりよい 自分を求めて生きようとする 生徒	3年生：「進路」 自分の将来の生き方に目を 向け、よりよく生きよう とする生徒
---	---	--

と設定し、体験活動を中心にした学習を展開するなかで、よりよい生き方を考えることができる生徒を育成しようと考えている。

修学旅行については、自分の将来に役立つ場として、また普段の学校生活で身につけた力を実践する場としてとらえている。学年での行動、学級別行動では、仲間との関わりを大切にした活動ができるように計画している。班別行動では、体験活動を取り入れ、地元の人のみでなく、他の地域の人との関わりを大切にした活動ができるように計画している。

2. 修学旅行のねらい

- (1) 集団行動を通して生活経験を豊かにし、お互いに親睦を深める中で協力・責任・規律ある態度を身につける。
- (2) 日本の首都である東京と、国際文化都市横浜見学を通して、幅広い知識とものの見方を育てる。
- (3) 生徒自らの手で班別行動計画の立案やきまりの話し合いをすることにより、自主的、自治的な態度を育てる。
- (4) 思い出に残る感動体験を味わうことにより、学年・学級の和を深める。

3. 計画立案にあたっての基本的な考え方

- (1) 修学旅行での体験を通して、普段の学校生活では気づかないものの見方、考え方、生き方に触れさせる。
- (2) 学年全体での活動を取り入れることで、思い出の場を共有し、みんなで創り上げる修学旅行という思いをもたせる。また学級別行動を取り入れることで、各学級の和を深め、今後の学級経営に生かす。
- (3) 班別行動で、横浜・東京ならではの体験学習を取り入れることで、人との関わりを大切に活動をする。また、少人数での活動となるので、一人ひとりが責任をもって行動したり、班で協力したりする場面が増える。

(4) 準備を楽しみ、当日を楽しみ、まとめを楽しむことができるように、一人ひとりが自分の役割をもち、集団への帰属意識を高め、達成感を得られるような修学旅行にする。

4. 日程について

【1日目】 5月27日(火)

学校(屋外ステージにて出発式) ————— 豊橋駅 ————— 新横浜駅 -----
6:50 発(貸切バス) 7:30 着 8:00 発(こだま 532号) 9:57 着
---- 横浜班別行動(昼食、見学・体験) ----- 九段会館(泊)*夕食・学年イベント
10:10 16:00~16:30 着 22:00 就寝

【2日目】 5月28日(水)

九段会館(朝食) ————— 東京都内班別行動(昼食、見学・体験) ————— 東京ディズニー
8:00~発 15:00~16:00 着
ランド(夕食) ————— ヒルトン東京ベイ(泊)
21:00 集合 21:30 着 22:30 就寝

【3日目】 5月29日(木)

ヒルトン東京ベイ(朝食) ————— 学級別行動(昼食) ————— 東京駅丸の内南口 ——
8:30 発(貸切バス) 13:00 集合
—— 東京駅 ————— 豊橋駅 ————— 学校(グラウンドにて解散式)
13:56 発(こだま 561号) 16:11 着 16:30 発(貸切バス) 17:20 着 18:00 解散

5. ねらいを実現させるための具体的な取り組み

(1) 横浜・東京についての調べ学習

2年生の3学期から、インターネット等を利用して、横浜・東京についての調べ学習を開始した。まずは、横浜・東京には何があるのかを一人一人が調べ、各個人の興味がある場所についてまとめていった。また、学級別行動や班別行動を計画する際の基本的な知識を身につけさせるために、横浜・東京の地図・路線図をわたし、どこに何があるのか、どのくらいの時間がかかるのか確認させていった。

そして3年生の4月、学級・班が決まった時点から、各個人が調べたことをもとに、本格的に学級別行動・班別行動の計画を立て始めた。

(2) 実行委員会の編成

2年生の2月、修学旅行を計画していくに当たり、以下のような目的、仕事内容を示して実行委員を募集した。

【目的】

- ・学年の代表として、修学旅行の在り方について考えるとともに、自主的活動意識を高める。
- ・集団を動かしていくリーダーとして、学年全員が社会の一員としての自覚をもって節度ある行動がとれるようにする。
- ・学年全体のことを考えた活動をすることによって、協力性や思いやりの心を育てる。

【仕事内容】

前期（現在～3月）	後期（4月～修学旅行の完全終了）
組織編成 ・委員長、副委員長、広報係 ＊できれば各クラス1名ずつ	役割分担 ・委員長、副委員長、広報係 ＊できれば各クラス1名ずつ
どんな修学旅行にしたいか ・スローガン（案）「 ・サブテーマ（案）～	修学旅行スローガンの決定 ・スローガン「 ・サブテーマ～
具体的な目標 ・当日の目標とそれに準拠した普段の学校生活での目標	具体的な目標を達成させるための活動
班編制の仕方と係分担・組織作り ・班の人数、男女別、決め方、係の種類等	班編制と係分担 ・かたよりのない係組織を目指す。
班活動のルール作り ・テーマの持ち方 ・行く場所のルール設定	ルールの見直し、守らせるための工夫
出発式・到着式の企画	出発式・到着式の企画・運営
しおりの作成	しおりの作成 ・全体案、各係への割り振り、表紙、目次
学年集会の企画・運営	学年集会の企画・運営
その他、全体に関わる問題解決	その他、全体に関わる問題解決

各クラス数名の応募があり、前期の実行委員は11名でスタートした。組織編成から始め、具体的な目標を以下のように考えた。

「誠実」... ・東中生であることを忘れず、誇りをもつ

- ・それぞれ正しい道に進んでもらうように、マナーやルール、時間を守る
- ・周りに気を配る
- ・迷惑をかけない

「学習」... ・修学旅行は楽しむだけでなく、勉強のためにいくということを自覚する

- ・自分の調べたいことを見つけ、計画を立てる

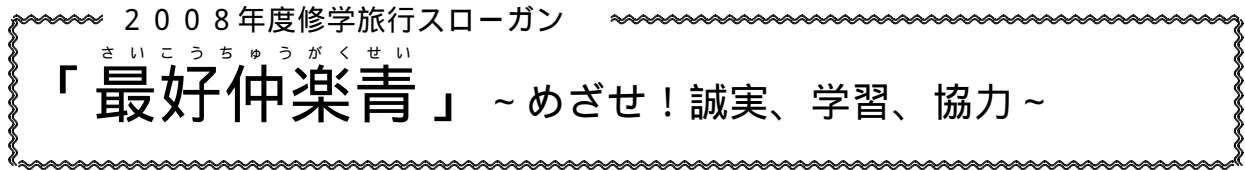
「協力」... ・友だちと互いに助け合うことで友情を深める

- ・自分勝手な行動はしない
- ・思いやり

これをもとに、学年全体にアンケートをとり、スローガンを募集した。そして、実行委員で話し合って案を作成していった。また、4月に入ってからあわてなくてもいいように、班編制の仕方と係分担も決めておいた。

(3)スローガンづくり

2年生の2月に学年全体でとったアンケートを実行委員で集約していった。実行委員会で選ばれた案をもう一度学年に戻し、多数決で以下のように決めた。



このスローガンには、「大好きな、最高の仲間と、楽しい青春の思い出をつくろう」という生徒の願いが込められている。様々な活動をする際に意識して行動できるように、常にスローガンを掲げて活動した。そして、実行委員で話し合い、目標を達成するための具体的な活動を以下のように決め、日々の生活から見直していった。

	日常生活	修学旅行中
誠 実	・チャイム着席の徹底 ・制服、ジャージの着こなし	・東中生であることを意識 ・時間を見て行動
学 習	・提出物の徹底 ・学習への計画的な取り組み	・学習する気持ちを忘れない ・事前調べ、事後のまとめをしっかりとやる
協 力	・自分勝手な行動をしない、させない ・班、学級、学年の和を意識する	・集団行動を乱さない ・班、学級、学年の和を意識する

(4)学級別学習の計画作成

3年生の4月、学級開きとともに、すぐに学級別行動の希望をとり、計画の作成に取り組んだ。学級のみinnで共有する思い出として、何がしたいか、どこへ行きたいかを考え、各学級ごとに希望を出し合った。各学級の希望を旅行社に伝え、計画を立ててもらった。なるべく重ならないように調整をし、以下のように決定した。

- A組...東京タワー お台場 東京駅
- B組...車窓見学 お台場 東京駅
- C組...隅田川下り 汐留 お台場 東京駅
- D組...上野公園 浅草(もんじゃ焼き) 東京駅

どの学級も、自分たちの学級ならではの思い出作りがしたいということで、真剣に調べたり、家族に聞いたり、意欲的に活動していた。

(5)班別学習の計画作成

班編制

班編制の仕方は実行委員会で案をつくり、学年全体で意見をもらい、了承を得る形で決定していった。その結果、各学級ごとに行い、一班4～5名の男女混合班とした。それぞれ班長を決めてから、残りはくじ引きで班を編成した。班長が、班員全員のことを考慮し、この班ではどうしても活動できないと判断した場合のみ、くじの引き直しをした。

資料準備

生徒にとって横浜・東京は未知の世界であり、なにがあるのかあまりわかっていないので、資料をそろえて、活動の助けとなるようにした。

【各班一冊】

- ・まっふるぼけっと東京
- ・東京地下鉄便利ガイド
- ・東京班別行動
- ・るるぶ横浜、るるぶ東京
- ・地下鉄時間表

【各学級一、二冊】

- ・横浜中華街スーパーカタログ
 - ・ブルーガイド東京
 - ・東京散策乗り物ガイド
 - ・テーマパーク&レジャーランドハンディマップガイド
 - ・東京全図
 - ・たびまる東京
 - ・東京を歩く
 - ・東京散策案内
 - ・乗る&歩く東京編
- 計画表作成

班編制ができるとすぐに、以下のような条件を提示して、班別学習の計画に取りかかった。

- ・班員全員で話し合って、納得のいく計画にすること
- ・目的をはっきりさせておくこと
- ・体験活動を1つは入れること
- ・時間の計算もしっかりしておくこと
- ・見学料や交通費などの金額を算出しておくこと

班長を中心に話し合いをしたが、はじめのうちはなかなか思うように進まず、多くの班が苦勞していた。しかし、回を重ねるごとに班の和ができてきて、お互いに言いたいことが言えるようになった。班長がみんなの意見を取りまとめ、それぞれの思いのこもった計画ができた。

※書き方は下の例を参考

一人当たりの予算 (項目と金額)
260
100 × 2
200
450
310
180 × 2
310
190
(130)
140
合計 3470 (+130)円

九段会館
16:00~16:30着

【記入例】 --- 徒歩 ——— JR +++ 地下鉄 - - - 私鉄 ——— バス
 ※注意 ・JR ○○線、地下鉄 ○○線などと詳しくかくこと。駅名を()で囲むこと。
 ・見学地は四角で囲み、見学を始める時間と終わる時間を記入。
 ・昼食をとる場所も記入すること。(例) 最高裁判所 (永田町) +++ (新木場) — (舞浜)

【班別学習の見学地一覧】

組	班	一日目（横浜・東京）	二日目（東京）
A組	1	三菱みなとみらい技術館,竹下通り	新宿,日本テレビ,アメ横
	2	中華街,自由が丘,渋谷	竹下通り,秋葉原,吹きガラス体験,浅草寺,仲見世
	3	中華街,自由が丘,渋谷,原宿	湯島天神,浅草寺,吹きガラス体験,上野
	4	三菱みなとみらい技術館,自由が丘	竹下通り,アメ横,秋葉原
	5	中華街,竹下通り,ナムコナンジャタウン	東京大学,アメ横,花やしき,吹きガラス体験
	6	中華街,お台場,日本科学未来館	江戸風鈴,東京証券取引所
	7	三菱みなとみらい技術館,中華街	アメ横,秋葉原,アクアシティお台場
	8	みなとみらい,日本科学未来館,原宿,渋谷	秋葉原,アメ横,浅草寺,仲見世
B組	1	中華街(肉まん・餃子作り体験),テーマパーク	渋谷,日本テレビ,フジテレビ
	2	中華街,秋葉原	江戸風鈴,浅草寺,アメ横
	3	中華街(肉まん・餃子作り体験),テーマパーク	日本テレビ,表参道,アメ横
	4	中華街,アメ横,浅草寺	NHKスタジオパーク,スウィーツフォレスト,東京タワー
	5	横浜駅周辺,日本橋(ラッピング体験)	渋谷,原宿,秋葉原
	6	よこはま動物園,渋谷,原宿	提灯文字,浅草寺,アメ横,秋葉原
	7	中華街,渋谷	江戸風鈴,秋葉原,アメ横
	8	中華街,ナムコナンジャタウン	秋葉原,江戸切り子体験,アメ横
C組	1	中華街,渋谷	江戸風鈴,お台場
	2	赤レンガ倉庫(トンボ玉体験),中華街,渋谷	渋谷,原宿,秋葉原
	3	中華街(肉まん・餃子作り体験),東京タワー	国会議事堂,原宿,渋谷
	4	みなとみらい,原宿,新宿	江戸風鈴,上野博物館
	5	中華街,東京タワー,原宿	江戸風鈴,上野動物園
	6	中華街,渋谷	江戸風鈴,浜松町
	7	中華街(肉まん・餃子作り体験),原宿,渋谷	国会議事堂,アメ横,上野
	8	中華街(肉まん・餃子作り体験),渋谷	渋谷,原宿,月島
D組	1	赤レンガ倉庫(トンボ玉体験),中華街,渋谷	アメ横,お台場
	2	中華街(肉まん・餃子作り体験),渋谷	原宿,東京タワー,お台場
	3	中華街,原宿,東京タワー	吹きガラス体験,秋葉原,お台場
	4	中華街,原宿	江戸風鈴,東京タワー,お台場
	5	中華街,渋谷,秋葉原	江戸風鈴,お台場
	6	中華街,渋谷,原宿	江戸風鈴,秋葉原,アメ横
	7	中華街,原宿	江戸風鈴,フジテレビ,船の科学館,日本未来科学館
	8	中華街,渋谷,原宿	江戸風鈴,お台場

* 一日目は新横浜駅解散、九段会館集合、二日目は九段会館解散、ディズニーランド集合

(6)係活動

班編成とともに、一人一役の係決めを行った。班長は、班編成のときに決めたので、仕事内容を示し、学習係、保健・美化係、レク・会計係を各班で決めさせた。

係名	事前の役割	当日の役割	事後の役割
班長	班活動の中心、生活面での規律徹底、ルールの考案、服装・持ち物の検討	集合・整列・点呼 緊急時の連絡	班活動の中心 他の係の補助
学習	班別学習計画表検討・作成、見学地での注意事項検討	見学の記録	まとめの中心
保健・美化	健康観察表作成、緊急時のマニュアル検討	健康観察、緊急時の対応、見学地での美化活動	まとめの手伝い
レク・会計	バスレクの計画、会計報告書の書き方と作成	バスレク	会計報告書作成

各班での仕事をする前に、各係ごとで集まり、仕事内容の説明や係全体での検討事項について話し合いを行った。一人一役ということで、それぞれが責任をもって話し合いに参加していた。各班に戻って伝達しなければならないので、みんな集中して係会に取り組んでいた。係会で決定したことは、基本的に各班の係の生徒を通じて知らせるようにした。

班長会より

マナーを守る

- ・人として常識的なマナーは必ず守る。
- ・他の人が話をしているときは、きちんとその人の話を聞く。

バス内での行動

- ・具合が悪くなったら、近くの人や先生に知らせ、前の席に移動させてもらう。
- ・指示をしっかりと聞いて、勝手な行動はしない。
- ・走行中に席を立ったりしない。

ホテル内での行動

- ・他の部屋に行かない、また消灯時間を過ぎてからは部屋の外に出ない。
- ・階段・廊下で走らない、ホテルのものを大切に扱う。
- ・しおりを見て計画的に行動し、無駄な時間を作らない。

集合時について

- ・5分前行動を心がけ、集合時間に全員がそろうようにする。
- ・点呼をする際は、班長が全員そろったことを確認し、そろった班からその場に座る。

班行動

- ・班員はいつもまとまって行動し、絶対にはぐれないようにする。
- ・他の班と合流して行動したり、男女で別行動など自分勝手な行動をしない。

その他

- ・はぐれたりしたら、すぐに本部（学年主任の携帯電話）へ連絡する。
- ・体験等は時間厳守で、遅れそうな場合は、体験先・本部へ連絡する。
- ・交通ルールをしっかりと守り、事故などに遭わないように気をつける。
- ・品物の販売などで、声をかけられた場合など、はっきり断る。
- ・危険な場所には近づかない。

* 本部との連絡がとれない場合は、他の先生と連絡をとるようにする。

* その他、具体的目標に沿った行動をとること！

学習係より

見学地での注意事項

- ・あいさつをしっかりとる。
- ・ゴミは自分で持ち帰る。
- ・大声を出したり、はしゃいだりせず、指示をよく聞く。
- ・撮影をする場合は、必ず許可を得る。

乗り物での注意事項

- ・騒いだりせず、静かにする。
- ・席はつめて座り、必要に応じてゆずる。
- ・降りる人を優先する。

班別学習のまとめについて

- ・修学旅行のまとめ冊子（作文、一人1200字程度）を各学級ごとでつくる。
- ・班別学習のまとめ壁新聞を、班ごとに、B紙一枚にまとめる。三年生職員で評価し、最優秀賞一班、優秀賞四班を表彰する。
- ・壁新聞をもとに、各学級で発表会を行う。各学級で学級代表を二班選び、学年でも発表会を行う。

保健・美化係より

健康チェックについて

- ・健康チェックについては、基本的に班単位で行う。旅館やホテルでは、部屋ごとに行う。
- ・健康チェック用紙は事前に準備し、各班の保健係 担任 養護教諭の順にまわす。

食事について

- ・おやつは新幹線、東京のバスでの移動、二日目のホテルのときに食べてもよい。
- ・買い食いはよいが、食べ歩きは禁止とする。
- ・マナーを守って、食べる場所を考える。

ゴミについて

- ・班別学習や学級別学習で出たゴミは、ゴミ捨て場に捨てる。
- ・ホテルや旅館で出たゴミは、ゴミ箱へ捨てる。

緊急時マニュアル

- ・日射病 首を冷やす。涼しい場所に連れて行く。
 - ・乗り物酔い 背中をさする。事前に薬を飲んでおく。
 - ・けが ばい菌が入らないように、きれいな水で洗う。保健係が救急セットを持ち歩く。
 - ・体調不良 よく体調不良になる人は薬を持って行く。我慢せずに班員に知らせる。
 - ・鼻血 鼻の上を冷やして、しばらく安静にする。
- *あまりにもひどい場合には先生に連絡をする。また、周りの人に助けを求める。
- *交通事故については必ず先生に連絡をする。

レク・会計係より

こづかいについて

- ・金額（10,000円以内）を守って、使う金額を考えて無駄のないようにする。
- ・おごったり、おごられたりは決してしない。
- ・アクセサリやキーホルダー等は、家に帰るまで身につけない。
- ・こづかい帳に記入をし、自分がどのくらい使ったかを確認する。

バスレクについて

- ・各学級のレク・会計係でバスレクを考えて行う。
- （バスレク：告白タイム、しりとり、ラブレターゲーム、クイズ、歌など）

会計報告書について

- ・各班のインスタントカメラについては、レク・会計係が現像・焼き増しを、責任をもって行い、班の人数で割り、一人分の費用を算出する。
- ・会計報告書を作成し、班員に配る。

(7)後期実行委員会の活動

4月に入り、後期の実行委員を募集したところ、14名の応募があった。前年度からのメンバーもいて、ある程度準備を進めていたので、順調なすべり出しであった。組織の再編成をし、ルール決めなど主体的に活動していた。まず実行委員が案を作成し、3年学年スタッフ会で通ったものを、学年全体に了承を得る形で様々なルールを決定していった。また、実行委員で役割分担をし、一人一回は学年全体の前に立ち、指示を出すようにした。

各イベントの計画・運営

出発式（屋外ステージ、雨天時武道場）

- 1 はじめのことば
- 2 実行委員長の話（スローガンの確認含む）
- 3 校長先生のお話
- 4 学年主任の先生のお話
- 5 出発のあいさつ「いってきます」
- 6 おわりのことば

一日目 学年レク

- 1 はじめのことば
- 2 学級対抗フリーズマン
- 3 アニメソングイントロクイズ
- 4 伝言ゲーム
- 5 学年主任の先生の話
- 6 おわりのことば

到着式（運動場、雨天時武道場）

- 1 はじめのことば
- 2 到着のあいさつ「ただいま」
- 2 副実行委員長の話
- 3 校長先生の話
- 4 学年主任から諸連絡
- 5 添乗員さんへのあいさつ
- 6 おわりのことば

服装・持ち物

服装：制服（夏）、通学用靴、ウインドブレーカー、体操服（ホテル内）

持ち物：スポーツバッグ等（出発日前日に発送する）

セカンドバッグ等（班別学習・学級別学習のときに使用）

雨具、タオル、ちり紙、生徒手帳、しおり、筆記用具、ハンカチ、体操服、

着替え、タオル、洗面用具、ビニル袋3枚、遊具（トランプ、ウノのみ）

時計各班（1つ以上）、インスタントカメラ（記録用、各班1つ学校で用意）

おかし、常備薬（必要に応じて）、携帯電話（各班1台貸し出し）

*その他、学校生活と同様のルールとし、必要のないものは持ってこない。

*班別学習をしやすいするために、スポーツバッグ等は、前日に学校 旅館、2日目に旅館 ホテルへ搬送する。最終日は、バスと新幹線での移動がほとんどなので、自分で持ち帰る。

こづかいについて

・持って行くお金：自由に使えるこづかい10,000円以内+班別学習費用

・3日間通しての班別学習の入場料・交通費・食事代（一食1,500円以内）を、事前に計画を立てて算出する。

*計画にミスがあった場合、お金が余ったら持ち帰る。足りない場合は自由に使えるこづかいから出す。

(8) 集合・整列・点呼、新幹線乗降練習

4学級約150名の学年であるので、指示の伝達や安全面を考慮した各場面での集団の動きがとても大切である。よって、学年集会で集合・整列・点呼の仕方と新幹線の乗降について練習を行った。集合・整列・点呼については、集合場所の広さや状況に臨機応変に対応できるように、各班2列縦隊や4列縦隊など、様々な形態での集合・整列の練習を行った。また、新幹線について、実際に乗車する豊橋駅では、停車時間が4,5分しかない。体育館で、椅子を駅のホームや新幹線に見立てて、整列隊形や乗降車の手順を確認・練習した。当日は、集合・整列・点呼もしっかりでき、新幹線もスムーズに乗降できた。



(9) 家庭との連携

学年通信によるお知らせ(随時)

学年懇談会による概要説明(4月)

事前説明会(5月)

健康調査(健康診断)

修学旅行費用のお願い

6. 当日の取り組み、事後活動の様子

(1) 当日の動き

1日目

出発

前日までの準備もしっかりでき、主体的に活動してきた。お互いに声を掛け合い、予定を確認しながら活動していたので、欠席する生徒も遅刻する生徒もいなかった。不登校生徒も、体調を崩しがちな生徒も含む、143名中143名全員が参加しての活動となった。

新幹線乗降車

豊橋駅での新幹線乗車は短い時間での活動となった。練習の成果が出て、待っている隊形作りも、乗車もすばやくできた。

横浜班別学習

新幹線では、多くの生徒が近くの友だちとカードゲームや会話をしながら、楽しいときを過ごした。そして新横浜駅が近づくとすばやく荷物をまとめ、降車の準備をした。順調に降車し、改札を抜けて少し歩いたところで解散した。各班ごとに分散して班別学習に向かった。

横浜中華街(肉まん・餃子作り体験)

(A男の作文より)

一日目は中華街へ行きました。そこで「世界一うまい肉まん」というのを食べました。でも、その肉まんよりうまい肉まんを発見しました。それは、班のみんなと店まで苦労してたどり着き、自分の手で作ったオリジナル肉まんです。今まで自分の作ったことがないので、こんなに大変だとは思いませんでした。大変な思いをしたからこそ、おいしさもアップしたのだと思いました。肉まんと餃子を作った後に、中国語を少し教えてもらいました。言葉が日本語や英語に近いものがたくさんあって驚きました。



赤レンガ倉庫（トンボ玉体験）

（B男の作文より）

まず、神奈川の横浜に着いて、我らのふるさと田原市では見ることでできない大きなビルや派手な建物と、これまた田原にはない人混みに、僕は圧倒され、感動した。そして、この横浜でもう1つ感動を味わった。ガラス体験で作った「トンボ玉」だ。僕は不器用なのであまり上手くできなかったけれど、雑念を捨てて頑張ったあのストラップは、忘れることができない大切な思い出となった。あと、そのときの担当のお姉さんが、ていねいに教えてくれたので、とても感謝している。



横浜中華街の肉まん・餃子作り体験では、自分で作って食べる楽しさを感じた生徒が多数いた。簡単そうではあるが、普段できない体験ができたので、生徒たちにとって貴重な経験となった。また、中国語も初めて教えてもらったためかとても新鮮で、多くの生徒が興味を持ったようであった。

赤レンガ倉庫でのトンボ玉作り体験では、自分だけのオリジナルトンボ玉ができ上がり、思い出が形として残せてうれしかったことが伝わってくる。また、教えてくださった担当者の方の存在も、よい思い出となった要因の1つであるようだ。

九段会館

1日目の宿泊は旅館で、一部屋4～10人であった。大浴場がないのは残念であったが、全員が入ることのできる夕食会場があった。指示も出しやすいし、全員共通の思い出ができてとてもよかった。また、本館を貸し切りにできたので、他校の生徒や一般客とのトラブルもなく、気楽に過ごすことができた。



学年レク

1日目の夕食後、大広間に全員が集まって学年レクを行った。修学旅行ということもあってか、みんなの気持ちが盛り上がり、楽しく過ごすことができた。フリーズマンでは、それぞれがポーズを工夫し、なかなか正解が出ないほどであった。イントロクイズでは、アニメソングを振り付きで熱唱し、大きな笑い拍手を巻き起こした。伝言ゲームでは真剣にやっているのだが、言葉がおかしな方向に変わっていき、正解が出なかったけれど、楽しめたようであった。全員がレクを楽しもうという気持ちで取り組んでいた。



企画をした実行委員たちは、「自分たちはレクができなかったけれど、みんなが楽しんでくれたので本当にうれしかった」と振り返っていた。



2日目

東京班別学習

江戸風鈴

(C男の作文より)

この江戸風鈴は、世界のどこを探してもここにしかない、世界に1つの風鈴屋さんです。また、東京都から数々の賞をいただいて「東京の象徴」と呼べるくらい地域に根付いています。このことを篠原さんに教えられたとき、とにかくすごくうれしかったです。

風鈴作りでは、実際に型から作らせてもらい、「宙吹き」という特別な吹き方を体験できました。そのときに感じたのが職人さんはすごいということです。風鈴本体の型を作るときの息の吹き加減や風鈴に対するあつい気持ち、風鈴への思いやりなど、ひしひしと伝わってきました。ぼくも篠原さんたちみたいに自分の仕事に誇りがもてるようになりたいです。



ラッピング体験

(D子の作文より)

2日目にはラッピング体験をしました。ラッピングを教えてくださいの中村さんは、とても話しやすく親切でいい人でした。誰でもわかる教え方をしてくれて、とてもやりやすかったです。ありがとうございました。



江戸切り子

(E男の作文より)

江戸切り子とは、ガラスを二枚重ね、その一枚を削って模様をつけていくガラス細工のことです。僕たちは、その削る作業の体験をしました。一本の線を引くだけでも、まっすぐに引けないのに、職人さんたちはそれを模様にしていくなんて本当にすごいと思いました。1つの技を極めるということはすごく大変で、感動を生むということがわかりました。また、この体験でいろいろ教えてくださった方に感謝しなければいけないと思いました。



吹きガラス体験

(F子の作文より)

私は初めてガラスの液体を見ました。あんなに堅いものがどろどろでした。液体のガラスのほうが重く感じました。ガラスを棒から棒へ移しかえたときはドキドキしました。1つのガラスを作るだけで結構大変だったので、完成品が届いたときには、めちゃくちゃうれしかったです。



提灯文字

(G男の作文より)

浅草雷門から提灯屋「恩田」さんまで意外と時間がかかったけど、予定より早く着いた。お店の人が出てきて案内してもらった。提灯の種類やこの歴史などを教わった。提灯文字の体験では、表の自分の名前は輪郭を書いてくれてあったので上手にできた。裏にも言葉を書いたが、思っていた以上に難しかった。それでも、僕だけの提灯ができて、部屋に飾ることができるのでとてもよかった。



国会議事堂

(H男の作文より)

東京で一番心に残ったのは国会議事堂です。国会議事堂は衆議院と参議院に分かれていたので、衆議院の方に行きました。中はとてもきれいで、廊下に敷いてあったカーペットは歩きにくいぐらい柔らかかったです。会議室では、総理大臣が座るとい椅子に座らせてもらいました。とてもフカフカで、長い時間座っていると眠ってしまうのではないかと思いました。最後に天皇陛下が来たとき使うという部屋を見せてもらいました。金でできた時計や絹のじゅうたんがあって、壁には金箔や銀箔がたくさん貼ってありました。こんなに贅沢な部屋は今まで見たこともありませんでした。衝撃的でした。



東京班別学習では、江戸風鈴や江戸切り子、提灯という東京ならではの歴史ある体験ができた。吹きガラス体験やラッピング体験も普段ではなかなかできないので、とてもよい機会となった。また、職人さんたちや指導して下さった方たちの技能や人柄にふれ、そのすばらしさに感動した生徒も多かった。体験して自分で作ったものが形として残るので、最高のおみやげとなった。

国会議事堂は、学級単位での見学とは違い、少人数での見学であったので、普段は入れてもらえないような部屋にも入らせてもらえた。総理大臣や天皇陛下が使うというだけで、生徒たちはものすごく興奮していた。

ディズニーランド

ディズニーランドでは、二人以上で自由行動としてあったので、各クラスをまたぎ、それぞれ仲のよい生徒同士での活動となった。どの生徒も、アトラクションに入ったり、おみやげを買ったり、写真を撮ったり、とても楽しそうにしていた。さらに、二日目のホテルをディズニーランドの近くにとり、帰りの集合時刻を21時にできたので、パレードもゆっくり見ることができ、生徒たちは大満足であった。

ヒルトン東京ベイ

二日目のホテルは、1部屋4人であった。カードキーやユニットバスなどの使用についても、事前に説明してあり、問題なく過ごすことができた。みんなルールを守り、部屋の中で過ごしていたので、他校の生徒や一般客とのトラブルもなかった。

3日目

学級別学習



A組「お台場にて」



B組「お台場にて」



C組「川下りの船」



D組「もんじゃ焼き」

朝から雨が降っていたが、各学級予定通り出発した。

A組は東京のシンボルとも言える東京タワーを中心に見学コースを決めた。東京タワーが

らの景色をみんなで共有することで、学級の和が深まったようであった。B組は車窓見学で東京タワーや国会議事堂、桜田門などを見て回った。バスガイドさんの説明付きで、東京の名所を詳しく知ることができたのでよかった。C組は浅草寺で合格祈願をし、その後隅田川下りを体験した。船の上から街並みの移り変わりを楽しみながら、友だちとの交流を深めた。D組は上野公園、浅草寺、雷門、仲見世を見て回り、その後みんなでもんじゃ焼きを焼きながら食べた。初めて食べる生徒が多く、また各班で1つの鉄板を囲んで食べる形式であったので、とても楽しそうであった。

バスレク

東京学級別学習のバス移動の時間を利用して、各学級のレク・会計係を中心にバスレクが行われた。バスに乗ったときには疲れていたためかあまり元気がなかった。しかし、レク係が前に立つとみんなの気持ちが盛り上がった。事前にレクの説明もしてあったので、楽しみにしていた生徒が多く、ラブレターゲームやクイズで盛り上がった。

到着式

新幹線にも予定通り乗車し、定刻に豊橋駅へ着いた。豊橋駅から学校まで、道路がすいていたためか、予定より早く学校に着いた。天気もよく、運動場で到着式を行い、全日程を無事終了することができた。

(2) 事後の活動

文集作り

到着式後、修学旅行の感想を家でまとめてくるように連絡した。頑張っ準備して、楽しく過ごすことができたので、思い出を形に残したいという生徒の申し出があったからである。そこで、修学旅行が終わって、気持ちが高まっているうちに、それぞれで思いをまとめておくようにした。一人1,200字程度にまとめ、学級ごとに冊子にした。

壁新聞作り

班別学習のまとめとして、壁新聞作りに取り組みさせた。各班B紙一枚に、体験の内容と感想を中心に、一人一人役割分担をしてから作業にはいるようにした。短い時間ではあったが、どの班も自分たちの班が一番楽しかったと言わんばかりに、気合いの入った作品ができあがった。そして、壁新聞コンクールを行い、内容、構成、工夫を視点として、3年学年スタッフで最優秀賞1点、優秀賞4点を選んだ。



発表会

各班で作った壁新聞をもとに、班別学習についての発表会を行った。まずは学級で発表会を行い、代表を二班決めた。審査基準は、発表する声がよく聞こえるか、班員全員が発表時に何らかの仕事をしているか、班で工夫した発表をしてるかとした。どの班も班員全員が何らかの仕事をし、とてもよい雰囲気での発表会ができた。お互いに班での活動をたたえ合い、ときには笑い合い、他の班の活動の様子を知ること、また修学旅行を楽しむことができた。



7. 修学旅行への取り組みの振り返り

(1) 教師

期日については、実施日が5月末ということで、しっかりと活動時間が確保できた。また実行委員会を前年度2月から活動させていたので、生徒の計画・準備等への主体的な取り組みがみられた。

しかし、学級別学習や班別学習などは、新年度がスタートしないと細かな計画が立てられなかった。学級別学習については早く予約をしたいということもあって、新年度がスタートしてすぐに学級で話し合い、決定していった。少しあわててしまい、じっくり考えさせる時間が取れなかった。

修学旅行当日は3日目が雨で、少し残念であった。雨天時の対応も考えて準備はしてあったが、梅雨時で雨の降る確率が高いこの時期に行くのはどうかと考えさせられた。

事後の活動時間については、部活動の大会や期末テストが間近に迫っており、十分な活動時間が確保できなかった。よって、文集の作文は宿題という形で対応し、壁新聞作りを中心に活動させた。

班別学習については、多くの班が、体験場所でのあいさつがしっかりできたこと、体験先の方の話をしっかり聞いたり、わからないことを質問したり、人との関わりを大切に活動できたことがよかった。しかし班によっては、道に迷って約束の時間に遅れたり、指示されないと動けなかったり、体験先の方に迷惑をかけてしまうこともあった。計画・準備の段階でしっかりとチェックすべきであった。

また、班別行動が多いので、学級で行動する時間をもっと増やしたほうがよい。年度始めの学級経営の1つの材料としても、学級で活動することは大きな価値がある。

集合時間に遅れてくる班もあったが、余裕をもって活動できるように計画してあったので、慌てることなく対応できた。しかし、生徒たちの時間に対する意識の甘さが見られた。人と関わる中で、時間を守るということは重要な要素の1つであるので、普段の学校生活でも継続して指導していきたい。

宿泊については、1年生のオリエンテーション合宿、2年生の立志での経験が生かされており、みんなでルールを守って楽しく過ごすことができた。宿泊を伴うということで、食事やアレルギー、持病などについても、事前に調べたり家庭と連絡をとったりしてまとめてあったので、個に応じた対応ができた。個人情報であるので、取り扱いには十分配慮した。

費用については、4月、5月の集金で2万円ずつ集金し、6月に残りを集金した。またそれとは別に、小遣い1万円、班別学習費用約3,000円～7,000円を保護者の方に負担してもらっている。もう少し安くするために、行き先の再検討も考えるべきである。

また、集金については、一度に多額の支払いを保護者をお願いすることになり、心苦しかった。積み立て等の工夫が必要である。

(2)生徒

生徒感想「修学旅行を通して学んだこと」より

修学旅行を終えて確かに変わったのは、「他人の見方」。私は人との間に壁を作って、ラインまで引いていたのかもしれない。私を変えてくれたのは、「友だち」。今まであまり親しくなかったけど、見方が一気に変わった。これからは堅い自分の考えを捨てて、より広い心と瞳で見つめていけるような生き方をしたいです。

僕は東京のよいところをたくさん見つけることで、田原のよいところを改めて実感することができました。だからこそ、僕が住んでいるこの田原をもっとよいところにしていきたいと思いました。

東京で道に迷っていたら、通りかかったおばさんが「どうしたの?」と声をかけてくれた。しかも、体験場所まで案内してくれた。すごくうれしかった。僕も困っている人がいたら声をかけられるような人になりたい。

修学旅行に行く前に、班の話し合いや係会など、みんなで取り組んできました。一人一人が真剣に取り組んでいた結果、思い出に残る楽しい修学旅行になったと思います。いろいろな面で、みんなと協力することが大切だということを、修学旅行から帰ってきて思い、またこの作文を書きながら改めて思いました。

8. 事後の生徒の変容

2年生の3学期から実行委員を中心に、生徒たちが主体的に活動してきた。無事に事後活動を含む修学旅行を終えて、大きな自信を得た生徒たちは、その後の様々な活動にも積極的に取り組んでいる。部活動では、後輩たちに見本を見せるがごとく、最後の夏の大会に向けて全力で練習した。結果として今までにない成果をあげ、陸上競技部、テニス部、卓球部、吹奏楽部を中心に、地区大会を勝ち抜き、東三大会、県大会、東海大会で活躍した。体育大会では、準備・練習・当日・片付けなど、自分たちで考え工夫して活動していた。

2学期の総合学習は「進路選択」であり、現在は「高校生と語る会」の感想をまとめたり、「体験入学レポート」を作っており、文化祭で発表する予定である。

終わりに

修学旅行から帰ってしばらくは、生徒たちの日記に「修学旅行へまた行きたい」という言葉が多々見られた。特に「準備を楽しみ、行って楽しみ、帰ってきて楽しむ」ことを実践できたと書いてあったときには、準備や計画など苦労したことも忘れてしまいそうなくらいうれしかった。生徒の主体的な活動を中心に行事を進めていくと膨大な時間がかかる。時間の確保とともに、どこまでを我々教員が準備し、どこまでを生徒の主体性に任せるか、よく考えて取り組ませなければならない。

生徒の感想を見ると、「自分のイメージとは違い、テレビや本で見るだけでは得られない貴重な経験ができた」という感想が多かった。一人一人が調べ学習をし、自分の役割をもって参加することで、活動への関心が高まった。また、実行委員や班長、係長が積極的に取り組む姿勢を見て、他の生徒たちも意欲が高まったようであった。友だちや先生、現地の人たちとの関わりの中で、自分の思いが強まったり、新たな思いが生まれたり、心温まる体験ができた。

生徒にとっては、班で協力して、電車に乗って目的地を目指すことだけでも、たいへん貴重な体験になった。苦楽をともにすることで、友だちの良さを再発見したり、仲間がいることのありがたみを感じたりすることで、班員同士の絆が深まった。それは、準備の段階から多くの時間をかけて計画したり、話し合ったりしてきたからこそである。その絆の深まりが学級・学年の絆へとつながっていった。

人との関わりを大切にし、自己の生き方を考える修学旅行を目指して取り組んできた。修学旅行を通して、自分自身の行動を振り返り、今後の生活に生かそうとする生徒が多くいたのは喜ばしいことである。また、修学旅行から帰ってきてもらえらることなく、学習や部活動、行事などに意欲的に取り組む姿が見られたことから、日々の生活の上に行事が成り立っていることを生徒たちが理解したと考えられる。日々の生活でやるべきことをきちんとやり、しっかり準備をして、心にゆとりをもって取り組めたからこそ、感動も多く生まれたのではないかと思う。

1つ1つの行事を経験するたびに成長していく生徒の姿を見て、教師側が長期的な視野を持って、組織的に指導していく必要があると感じた。今回は3年学年スタッフ6名中3名が1年生からの持ち上がりで、ともに様々な行事を乗り越えてきている。よって、1年生の頃からの様子をお互いに知っているのも、指導方針の軸も変わらず、3年間を見通した指導ができた。また、3年学年スタッフ間の共通理解も重要で、しっかりした話し合いのもと、同一歩調で生徒の指導にあたるように心がけてきた。生徒と生徒、生徒と教師、そして生徒を取り巻く地域社会の人たちとの良好な人間関係を構築していくことが大切であると感じた。

修学旅行を、人間としての生き方を探求する場ととらえ、大きく成長する可能性を秘めた生徒たちに、人との関わりの中で自分自身を見つめ、これからの自分がどうあるべきかを考えさせてきた。今後も、教師と生徒が一体となって創意工夫し、充実した修学旅行の実現に向けて全力で取り組んでいきたい。